

第7回山口大学研究推進体「ストレス」公開フォーラム

転写調節による細胞機能制御

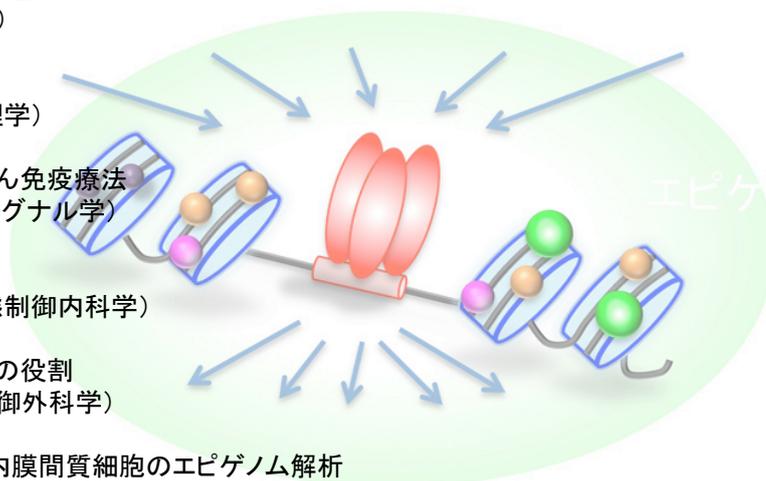
日時: 2013年12月2日(月) 17:00 - 19:40
場所: 山口大学医学部霜仁会館3階多目的室

Yamaguchi University Research Project on STRESS

はじめに 坂井田 功 山口大学大学院医学系研究科長

司会: 藤本充章 准教授(医化学)、佐古田幸美 助教(細胞シグナル学)

1. タンパク質ホメオスタシスを担うエピゲノム適応機構
瀧井良祐 助教、中井 彰 教授(医化学)
2. 脂肪細胞分化の新たな制御機構
本田 健 講師、乾 誠 教授(分子薬理学)
3. 免疫細胞の機能制御を介した新たながん免疫療法
安達圭志 助教、玉田耕治 教授(細胞シグナル学)
4. 時計関連遺伝子による糖代謝の調節
太田康晴 准教授、谷澤幸生 教授(病態制御内科学)
5. 大腸癌におけるJAB1を介した転写調節の役割
西本 新 助教、濱野公一 教授(器官制御外科学)
6. 次世代シーケンサーを用いたヒト子宮内膜間質細胞のエピゲノム解析
田村 功 助教、杉野法広 教授(産婦人科学)



まとめ 中井 彰 山口大学研究推進体「ストレス」代表

生物を構成する細胞は、刻々と変化する外部及び内部環境に適応して、細胞環境を一定に保つことで生命活動を営む。この適応機構(ストレス応答とも呼ばれる)の中心となるのが、核内におけるエピゲノムの書き換えによるクロマチン構造と転写の調節である。このような仕組みの破綻は神経疾患、代謝疾患、心血管疾患、免疫疾患、がん等をはじめとする様々な難治性疾患を引き起こすことが示唆されてきた。

本フォーラムでは、このようなエピゲノム調節による細胞のストレス応答(略して「エピゲノム適応機構」)に焦点を当てて、その基本的な分子機構、およびその適応機構の異常と関連する上記難治性疾患群の発症の分子機構、それらを基盤とした新しい治療ターゲットについてトピックスを紹介していただき、異分野の研究者を交えて議論します。

学外、学内からのご来聴を歓迎いたします。参加無料、登録不要。

主催: 山口大学研究推進体「ストレス応答と関連した難治性疾患のための戦略」
共催: 武田科学振興財団「特定研究」「エピゲノム適応機構を基盤とした疾患の病態解明」

連絡先: 山口大学医学部医化学分野(藤本 0836-22-2215)